



第10回 絵双六に魅せられて

少女スポーツ 双六

1926(大正15・昭和元年)



振り出しと上がり
振り出しはマーチングバンドに先導される少女たち。白い帽子と半袖シャツに黒のスカートです。上がりは花束と優勝カップを抱えた白いベレー帽の可憐な選手です。



スポーツ女子が大人気
安宅産業の創設者の娘である安宅登美子は、全日本テニス選手権女子ダブルス優勝者です。美人の容姿と高い学業の両立には読者が大勢つめつけ、「東大で行われた試合で、水に落ちて観ていた作家の高見順が登美子のプレーに拍手をした後、水から駆け落ちた」と日本テニス協会のHPに紹介されています。

女性スポーツの芽生えと普及
「ホ・ジャンフ(三段跳び)」「ドッドボール(ドッジボール)」など現在とは異なる名前も見られます。西洋文化のスポーツを興興と楽しんでいる姿が見て取れます。

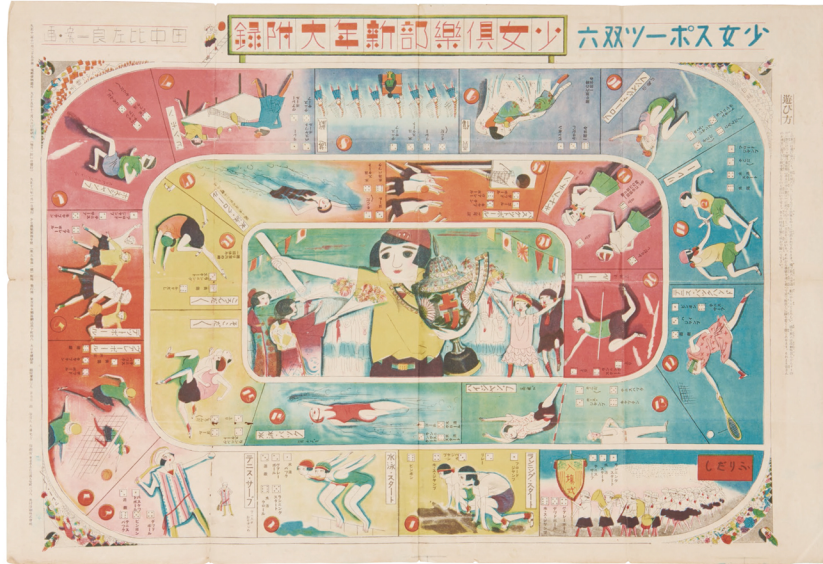
文・監修 **吉田 修**

よしだ・おさむ 1954年生まれ。鳥取県松江市出身。全国大学情報協会常務理事、NPOキャリア横断ネットワーク広報部長、和文文化教育学会会員を務めた。雑誌『双六』副編集長として双六の発展・研究・普及に尽力。公式HPは<http://www.sugoroku.net>

案・画：田中比佐良
発行所：大日本図書発行（現・講談社）
掲載：少女魂美少女年号
サイズ：B5判46×64×79mm
所属：吉田修 写真：鶴崎 隆

日本最初の少年少女雑誌は、一八八六（明治一九）年二月に創刊された「ちのあけぼの」です。やがて、絵双六は雑誌の付録の定番となり、子供の夢や憧れを大いに育みました。大正から昭和初期は「モダン」が流行し、都市の大衆文化が花開いた時代です。「少女俱樂部」新年号の付録であった少女スポーツ「双六」は、洗練されたモダン・ガールが登場し、流行の最先端のスポーツウェアを紹介するファッション情報紙でもありました。カラフルなストライプのウェアを着たテニス選手や競泳用の赤い水着の選手が登場しています。当時、女性の社会進出が進み、バスの車掌やウエイトレスなどの職業婦人が出現し、少しずつ女性がスポーツをすることへの理解が広がっていきます。

双六の裏面には、「全日本女子運動花形選手と最新記録」が載っています。そこには日本選手による世界記録が五つあげられ、そのうち、二〇〇メートル走、走幅跳び、立高跳び、三段跳びの四種目を人見絹江選手が保持しています。この双六が作られた年は、第一次若槻内閣が成立し、日本放送協会（NHK）が設立されました。英国ではミスチリイ作家、サカサクリステイの処女作が発表されました。



*1 これまで日本で最初の少女少女雑誌は明治21年11月に創刊された「少年魂」とされてきたが、平成23年発行の雑誌単行本『ちのあけぼのの探検』により、「ちのあけぼの」が最初であることが証明された。
*2 12月1日、現在では全日本大学女子体育大会、11日現在に見られるように、この数字を入れた大規模な商業誌が刊行され、雑誌小販作家であるコナン・ドイルらにも影響が及ぼされた。

2018

10
OCTOBER

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8 体育の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			